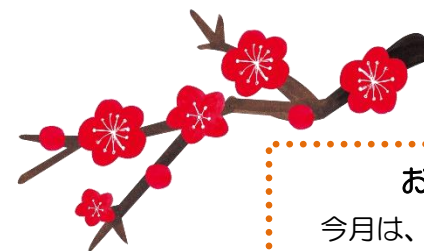




あいせんだより

令和2年 2月号



<今月の予定>

- 2日(月) 節分
- 7日(金) 幼児組公開保育(他園の保育者見学予定)
- 10日(月) 幸小学校交流会(年長児全員)
- 13日(木) 南新浜小学校交流会(就学予定児)
- 14日(金) 地域ひな祭り会10時~
- 27日(木) 創立記念日44周年/乳児健診

お知らせ

今月は、保育士資格を取得するための学生を保育実習生として受け入れています。園内で顔を見ることがあると思いますが、よろしくお願い致します。

まだまだ寒い日が続きますが、園には毎日子ども達の元気な笑い声があふれ、まるで一足先に春がきたように感じられます。これからの時期は、来年度の就学・進学を意識して生活をしていきたいと考えています。毎年、就学に向けて5歳児は全員、保護者面談を行います。他の年齢のお子さんでも進級に向けてご心配な事がありましたら、お時間をとって参りたいと思いますので、担任までお声をお掛け下さい。

引き続き、インフルエンザや風邪の予防のために、手洗いうがいの徹底、室内の消毒をこまめに行なっていきたいと思いますので、保護者の皆様もご理解ご協力をお願い致します。



アツアツおでんは、いかがですか~?

自分で作ったお金を持って、おでん屋さんの所に行き、「おでん下さい!」とお買い物。大根、こんにゃく、こんぶ、がんも、ちくわ、友だち同士、自分の一番好きな具の話も盛り上がり、「美味しい、美味しい」と大喜びでおでんを食べていました。



2才児も、戸外遊びやトイレ後、給食前に手洗い行っています。手を水で濡らし、石鹸をつけて…お兄さんお姉さんに負けないくらい上手に洗うことが出来ています。



<2才児>



電車や車を走らせるために、線路と道路が描いてあるマット組み合わせる子ども達。道路の途中に線路がつながっていると「これ違う~」と言いながら、組み合わせを変えています。

道路と道路、線路と線路がつながると、「つながった、つながった」と大喜びの子ども達。マットの組み合わせが広がっていくと、木や信号、トンネルが置かれ、電車が走りだしました。まだまだ物の取り合いや、「ぶつかって痛かった~」と、子ども同士もめている事もありますが、それ以上に数人のお友だちと仲良く遊ぶ姿が見られています。

雨の日や寒い日は室内遊びも時間も長くなります。子どもたちは、一人でじっくりと指先を使ったり、色の組み合わせを楽しむ玩具で遊んでいます



Mちゃん「これで10回目!」
コマ回しをしていたMちゃんが教えてくれました。
保育者 「そうなの!」とは言ったもの、Mちゃんはまだ1回も回せていないはず…。

Mちゃん 「Y君、Y君は10回も回せるの!」

保育者 「!?!」自分の事ではないの?

Mちゃんは、そばで一緒に遊んでいたお友だちの成功を自分の事のように喜んで教えてくれていたのです。

Mちゃんはこの日一日一度も回せませんでした。紐を巻いてはコマを投げ…を40分以上繰り返し行っていました。その集中力と頑張る姿に感動しました。



地域の老人会の方々も、毎年この会を楽しみにして下さっています。子どもたちにとっても、お年寄りと触れ合う、よい経験になっています。

今日は、子どもたちの劇を見て頂いたり、積木やお手玉、わらべうたを楽しんで頂く予定です。

地域ひな祭りの集い

今年も年長児のおじいちゃんやおばあちゃん、地域の老人会の方々をご招待して、楽しい時間を過ごしていきたいと思っています。

* * * * * 進級に向けて * * * * *



0～2歳児の子ども達は、来年度進級するクラスに遊びに行く機会を取り、新しい環境（保育室）への不安を無くしていきたいと考えています。

担当と一緒に遊びに行きますが、初めて見る玩具に興味津々。毎年、進級の際は、自分たちが好きな（慣れ親しんだ）玩具を用意して、環境がガラッと変わらないようにしていきます。

りんごさん、よろしくね！

幼児組では、今まで年長さんが率先して行ってくれていた人数報告や給食当番などを、年中児さんに引き継いでいます。

人数報告は、自分のクラスと小さいクラスの登園人数を事務室に報告にくる仕事です。年中さんが上手に出来るか心配そうに見守ったり、分からないで困っていると、耳打ちをして教えています。出来た時は頭を“いいこ、いいこ”と撫でてあげる子もいて、微笑まし姿に思わず笑ってしまいました。



ていねいな育児

もうすぐ進級ですが引き続き、子どもが自分でやろうとする気持ちを大事にしながら、やり方を教えたり、見守っていききたいと思います。



あそびこそまなび ～遊びの大切さを大人が理解する～

絵本は人生で3度の再会

絵本とは人生で3度再会すると言われています。



そういきなり聞くと、??? という感じですが、子どもにとっての絵本の存在意義として大切ですので、説明をしたいと思います。

絵本は当然ながら、まず大人が読んであげます。その後はその読んでもらった体験から、字が読めなくてもひとりで絵本を楽しみます。これが一度目の再会です。

学童期から青年期になり、成長の過程でときどき不安と向き合います。環境の変化や人間関係の難しさ、友人との別れなどがこんな時期に訪れます。そんな時は自分にとって確かなものに頼りたくなります。絵本は大好きな大人に大切にされた証ですので、こんな時にふと好きな絵本が近くにあると開きたくなります。これが二度目の再会です。この再会は親がいないところで起こることが多いです。運がよければ、親として遭遇できるかもしれません。

初めての子育ては誰しも不安なものです。小さな命に何をしてあげられるのだろうかと思ふとき、途方に暮れたとき、読んで貰った記憶のあるものを我が子に与えようと思ふ。これが3度目の再会です。

子どもにとっての絵本は消耗品ではありません。常に成長と共にいて、子どもが複雑な環境に置かれることになった時に子どもの支えになる事は間違いありません。絵本をそんな存在として子どもの側に置いてあげる子育ても悪くはないのでしょうか。



構成遊び 小さな大工さん デュシマ社（ドイツ）

コルク板に釘と木製のハンマーで、木のモザイク板を打ち込んで絵を描きます。

モザイク板の中心には穴が空いているので、軽力で打ち込むことができ、トントントン!と釘を打つ姿は、まさに小さな大工さんの様です。

片手で釘を支え、もう片方で木槌を使うこの複合的な動作が子どもの発達の欲求を満たし、夢中にさせます。肘・手首を使う遊びとしてとてもよいおもちゃと言え、見立てたり、幾何学的方向の感覚を自然と養うことができます。大人がやっても、見立てる楽しさについてのめり込みます。

